

**特定技能制度および育成就労制度の基本方針決まる**

—日本商工会議所・多様な人材活躍推進専門部会で考える—

開倫塾

塾長 林 明夫

**Q：林さんはなぜこのテーマに興味があるのですか。**

A：（1）実は、足利商工会議所の議員として、これまで十数年間、日本商工会議所の多様な人材活躍推進専門部会に参加、「女性・シニア・外国出身人材の活躍推進」について調査・研究、提言書を取りまとめ日本政府に提出する活動をしてきたためです。

特に、外国出身人材の活躍推進については、技能実習制度の問題点を議論し、特定技能制度の創設を政府に提言、政府の次年度予算の骨格を示す骨太方針に反映させるべく、議論を深めてきました。

（2）日本商工会議所だけではなく、公益社団法人経済同友会（東京）、公益社団法人栃木県経済同友会、会長を務める一般社団法人栃木県生産性本部でも調査・研究・政策提言の策定に参画を重ねてまいりました。

（3）ようやく、この3月11日に、従来の「技能実習制度は廃止」、「特定技能制度及び育成就労制度にかかわる制度の運用に関する基本方針」が、政府の閣議で決定され、「移民」という語句は使いませんが、いよいよ、日本でも、「外国人材活躍推進」の第一歩がスタートします。感無量です。

**Q：「特定技能制度」とは何ですか。**

A：「特定技能制度の意義」は、「人材を確保することが困難な状況にあるため、外国人により不足する人材の確保を図るべき産業上の分野（特定産業分野）において、一定の専門性・技能を有し即戦力となる仕組みを構築することである。特定技能制度の特定産業分野は、生産性向上や、国内人材確保のための取組みを行ったうえで、なお、人材を確保することが困難な分野とする」。

**Q：「育成就労制度」とは何ですか。**

A：「育成就労制度の意義」は、特定産業分野のうち、外国人にその分野に属する技能を本邦において就労を通じて修得させることが相当である分野（育成就労産業分野）に属する相当程度の知識または経験を必要とする技能を有する人材を育成するとともに、育成就労産業分野における人材を確保する仕組みを構築することである。育成就労外国人の受け入れは、特定産業分野のうち、特定技能1号水準の技能を3年間の就労を通じて修得させることが相当である分野（育成就労産業分野）に限って行う」。

Q：受け入れる外国人材に関する基本事項はどうなっていますか。

A：「特定技能2号」は、「熟練した技能」を持ち、日本語能力水準が「B 1に相当」、具体的には「N 3（日本語能力検定3級合格程度）」が条件です、「特定技能2号」になると、「在留期間の更新に上限がない」、「家族帯同が可能」となります。

Q：この「外国人材の活躍」に関する制度改革は、学習塾・予備校・私立学校と、何か関係があるのですか。

A：（1）「特定技能2号」を取得すると、「家族帯同」が可能となりますので、全国各地の学習塾・予備校・私立学校に、外国出身の小学生、中学生、高校生や、保護者の皆様が、少しずつかもしれませんが、増えてくることを意味します。

（2）日本の人口推計によれば、数十年後には、日本の人口の1割が外国出身者になると推計されています。全国の自治体は、外国人との共生社会、外国人にとって、暮らしやすい、働きやすい、学びやすい、魅力ある地域づくりを目指し、「地域間競争」が始まっています。人口の1～2割を超える地域がどんどん出てくると考えます。

（3）「やさしい日本語」を用いての、外国出身の小学生、中学生、高校生に対する「学校の授業の補習」や、「定期試験対策」、「受験指導」「保護者対応」が、求められます。

Q：学習塾・予備校・私立学校の経営幹部の先生方に、御提案がありますか。

A：お元気な先生は、正式な日本語教師の資格を取得し、帯同家族への、やさしい日本語を用いた学習指導と同時に、本格的な日本語教育を行うことを、ご提案します。今後、100万人単位で日本語を習得する皆様が日本にいらっしゃいますので、膨大な需要があります。

Q：最後に一言どうぞ。

A：今月も僭越ではありますが、先生方がお読みになれば必ず参考になる本をご紹介します。

（1）一冊目は、井上靖著「蒼き狼」新潮文庫、新潮社 1946年6月29日刊です。

（2）二冊目は、白石典之著「チンギス・カン、蒼き狼の実像」中公新書、中央公論新社 2006年1月26日刊です。

（3）三冊目は、宮崎市定編「世界の歴史、第6巻、宋と元」中公文庫、中央公論社 1975年1月10日刊です。

○井上靖の代表作でもある歴史小説の名作「蒼き狼」、中公新書、中公文庫「世界の歴史」第6巻をじっくり読むと、もっと歴史を学びたくなりました。

（4）四冊目は、國弘正雄著「國弘正雄の英語の学びかた」たちばな出版、2006年1月31日刊です。

（5）五冊目は、國弘正雄著「英語の話しかた、国際英語のすすめ」サイマル出版会 1984年刊です。

○國弘先生は、同時通訳の第一人者で、参議院議員、「一通り意味のわかった英語は、ひたすら音読」することを「只管(しかん)朗読」と名付け、奨励なさいました。大賛成、今で

も役に立ちます。

(6) 第六冊目は、平田寛編著「定理・法則をのこした人びと—小さな科学史辞典」岩波ジュニア新書、岩波書店 1981 年 4 月 20 日刊です。理科や科学に興味・関心を持たせるのに、今、学んでいる「定理や法則」を残した人々のお話をするには、極めて効果的です。

(7) 第七冊目は、今月のシェイクスピア、中野好夫の名訳「ロメオとジュリエット」新潮文庫です。是非、ご一読ください。

3 月 15 日記